

北海道内第1号「江差町歴史文化基本構想」の内容

宮原浩 江差町教育委員会

1. 江差町の歴史的経過

江差町は、北海道南西部の日本海に面している人口約7,800人の町です。

江戸時代中期から明治時代中頃にかけて、ニシン漁や北前船交易によって「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどの繁栄をみましたが、その後はニシン漁の不漁や社会のしくみの変化などによって経済は振るわず、人口減少も続いています。



【写真1】北前船が停泊する江差港（明治時代）

しかし、江差町民たちが地域の歴史文化に抱く想いは強く、そのため江差町内には有形・無形を問わず数多くの文化遺産が現存しています。ただ、人口減少などが要因で、それら文化遺産を次世代へ継承していくことが難しくなっています。

2. 「歴史文化基本構想」の提唱

このような問題を抱えている地域は、全国的にも数多く、文化庁は2007年に「歴史文化基本構想」の考え方を提唱し、「地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるもの」と定義づけ、全国的に構想策定を呼びかけました。

3. 「江差町歴史文化基本構想」の策定と内容

江差町では、地域の歴史文化を総合的に保存・活用していく必要性を確認し、「江差町歴史文化基本構想」の策定を行なうこととしました。

2015年7月に専門家・町民・行政などからなる組織を立ち上げ、策定委員会と調査部会を設け、それぞれに、または合同で会議を開催しました。

まず、調査部会では江差町内に所在する文化遺産調査を行ない、それを受け策定委員会で歴史文化の特徴として以下の4点を確認しました。

- 1) 鷗島を中心とした江差の地形から生まれた歴史文化
- 2) 本州からわたってきた文化が江差の風土に合うように形を変えた歴史文化
- 3) 有形と無形が響き合う歴史文化
- 4) 日々の生活リズムに根ざして人々が今も楽しんでいる歴史文化



【写真2】土場鹿子舞

東日本に広く伝承されている三匹獅子舞が、江戸時代に江差へ伝わり、各地で「鹿子舞」として伝承されている。祭礼時での実施にあわせて、練習や道具準備などを行っている。

このような歴史文化の特徴を捉えながら、文化遺産を次世代へ継承していくためのしくみとして、構想策定後に「エエ町、江差 宝箱会議」を立ち上げることとしました。この組織では、次のような活動を行ないます。

- 1) 1件ずつの文化遺産を「江差のお宝」として把握し、文化遺産の担い手とともにデータベース化を進める。
- 2) 様々な「江差のお宝」を、地域の歴史的・地域的な関連性に基づいてまとめて捉え「宝箱」とし、地域の人々と今の暮らしとの間の関係性を作り直す。
- 3) 「宝箱」ごとに、担い手を中心となって保存活用計画を作成する。

この考え方に基づいて、現在「エエ町、江差 宝箱会議」を開催し、江戸時代から当地で唄い継がれている民謡「江差追分」についての「宝箱」を見出す作業を、町民とともに進めています。

<詳細は江差町ホームページをご覧ください>